

# 戦後六十二年 平和への誓いを新たに

平成二十年六月二十三日(月)に沖縄全戦没者追悼式が執り行われ、戦没された方のご冥福を祈るとともに世界の恒久平和への誓いを新たにしました。

## 沖縄全戦没者追悼式

糸満市摩文仁の平和祈念公園で行われた式典には、来賓の福田内閣総理大臣、河野衆議院議長、江田参議院議長、岸田沖縄担当大臣のほか、遺族ら約六千人が参列しました。

式典では戦没者遺族を代表して仲宗根沖縄県遺族連合会会長が追悼の言葉を述べ、続いて来賓による献花やあいさつがありました。来賓あいさつの中で福田首相は「再び戦争の惨禍を繰り返してはならず、日本は世界平和と発展に貢献する平和協力国家として、国際社会で責任のある役割を果たしていく」と述べ、続いて河野衆議院議長、江田参議院議長があいさつを述べました。

式典終了後は、一般焼香が行われ、参列者が先の大戦で亡くなられた戦没者の御霊に手を合わせ、ご冥福をお祈りしました。



あいさつを述べる福田首相

## 平和宣言と平和の詩

仲井眞知事は「沖縄戦の実相と教訓を胸に刻み、平和な社会の実現を目指して県民の英知を結集し、力強く邁進する」と宣言しました。

読谷村立読谷小学校4年生の嘉納英佑君は「平和の詩」を朗読し、「皆が幸せになれるように、やさしい手とあたたかい心を持っていたい」と読み上げました。



追悼のことばを述べる仲宗根沖縄県遺族連合会会長



平和の詩を朗読する嘉納英佑君



平和祈念資料館と平和の光

## 平和の礎



## 平成二十年沖縄全戦没者追悼式平和宣言

私たち沖縄県民は、先の大戦において、筆舌に尽くし難い極限状況の中で、戦争の不条理と残酷さを身をもって体験しました。この悲惨な体験を通じて、私たちは平和がいかに尊いものであるかという人類普遍の教訓を学んだのです。戦争の記憶を正しく伝えること、二度と戦争を起してはならないと確認し続けること、この信条こそが沖縄の原点であります。

戦後、私たちは、廃きよと化した郷土に立ちながら、戦争で失ったかけがえのない人びとのことを思いつつ、県民が安心して生活できる経済基盤を作り、誇り高く生きるための文化的活力を取り戻すため、懸命に復興に取り組んできました。

その一方で、沖縄には、依然として広大な米軍基地が集中しており、基地から派生する事件や事故、騒音などに悩まされ続け、県民が納得できない負担を今なお強いられています。目に見える形で、県民の負担を軽減するために、基地の整理縮小や日米地位協定の見直し、事件・事故の防止などを、県民一丸となって、日米両政府に強く訴え続けるものであります。また、国際社会は、テロや大量破壊兵器の脅威、民族的・宗教的な対立や紛争など、平和を脅かす多くの要因が存在し、私たちが希う平和とは程遠い状況にあります。私たちは、このような県内外の厳しい状況を認識するとともに、祖先が築いてきた独自の歴史や文化によって培われた寛容の心と万国津梁の精神を生かし、「平和の礎」や「沖縄平和賞」に込

めた理念をもって、沖縄が引き続き、国際社会に対し恒久平和の発信拠点となるよう努力しなければなりません。慰霊の日に当たり、戦争で尊い命を失い、私たちに平和への思いを託し、私たちを見守って下さる全戦没者の御霊に心から哀悼の誠を捧げます。私たちは、沖縄戦の実相と教訓を胸に刻み、沖縄、日本、そして世界の人びとが安心して暮らせる平和な社会の実現を目指して、県民の英知を結集し、ここ沖縄の地で力強く邁進することを宣言します。

平成二十年六月二十三日  
沖縄県知事 仲井眞 弘多



## 慰霊の日の関連行事

追悼式の前日の二十二日夜には、糸満市の平和祈念堂にて沖縄全戦没者追悼式前夜祭(沖縄協会主催)が開催され、琉球古典音楽献奏や琉球舞踊奉納が行われました。

二十三日当日は沖縄県遺族連合会が主催する平和祈願慰霊大行進が行われ、炎天下の中、約八百人が糸満市役所から追悼式典会場までを徒歩で行進し、平和への誓いを新たにしました。



平和祈願慰霊大行進の様子

お問い合わせ【県福祉・援護課】TEL.098-866-2177 FAX.098-866-2758

